

誠美だより

10

2016/DEC

誠美保育園

手掛かりを求めて

園庭の芝生の種まきを終え、ひと月ばかりの養生の間、滑り台方面へ渡るための「橋」をかけました。爽やかな秋の入り进行期待した9月でしたが、あまり日差しを感じることもないまま、この種まきを境に、園内は徐々に冬じたくに入っていきます。

この不安定な秋の空に振り回された先日の運動会は、宮上小体育館での開催となりました（地域の資産に感謝）。

園庭実施が危ぶまれると、我々職員たちも「ああ」と一瞬肩を落とすのですが、いざ体育館で実施してみると、コンパクトな状況が一体感を産み、毎回、これはこれで…といった感も持ちます。

そうした中、それは、はなぐみ（2歳児）の親子が中央でダンスを演じている時の事でした。そのすぐ脇で、次の出番を待つかぜグループ（3～5歳児）の子どもたちが、中央で演じるダンスに合わせ、楽しそうに腰を振って踊る姿が目に入りました。ウズウズして自然に動き出してしまう体は止められない…という

たようすの彼らの「演技」に、思わずに入入ってしまいました。（はなぐみの皆さん、ごめんなさい。）

私は毎年、この運動会やお楽しみ会（劇遊びの会）の季節になると考えてしまいます。この時期の子どもたちにとって、人前で「披露」することの意味って何なのだろうか。

体育館の端で、中央の動きを真似て嬉しそうに体を揺らす子どもたちの群れに分け入って、時折「体、動いちゃうね」と目に応じ合いながら、いっしょに体を躍らせていく。もしかしたら、そんな状況に、この時期の子どもは「披露」した実感を持つのではないのか。不特定多数の人ではなく、まず私の大好きな「あなた」に見てもらいながら、このワクワクを共有して欲しい…あの子どもたちの笑顔は、そう語っているように感じました。

そして運動会を終えた秋晴れの日、とり（5歳児）の子どもたちに混じって、多摩動物公園へ出かけてきました。遠足シーズンの到来とあって、正門前にはものすごい数の団体。テキパキと入場者を

捌くために、いつも以上に配置された係員たちにとつて、その日、一番手のかかる動物は「ヒト」だったよう。

園内の無数の隊列に、我が隊も分断されることもしばしばだったのですが、職員の手数もあつたおかげで、程よく小隊に割れたり合流したりしながら、みんな一日よく歩いたなと感心しました。

こうした園外へ出かける際は、安全やマナーの面からも、いわゆる団体行動というやつが求められるのですが、「一糸乱れぬ」を求め過ぎても、せわしなく前の子の背を追うだけで、個々の興味や満足感が失われてつまらない経験になってしまうもの。そこでは、いい塩梅の「緩さ」も大事な事だと思つたのです。

この塩梅を可能にするのは、それを囲む大人たちの暗黙の連携。その日も、大人同士のコミュニケーションは最小限に、保育者それぞれが、子どもとのやりとりを楽しみながら過ごすようですが印象的でした。それが結果として、隊のましまりに繋がっているのかもしれない。

さらに先日、手洗いの手順を知ってい

く真つ最中のはなぐみ(2歳児)の記録に、こんなやりとりの記述がありました。「水を出し過ぎないようにね。」と声をかける保育者。すると「どうしてたくさん出しちゃだめなの?」「たくさんあるよー。」と蛇口を開いて見せる子どもたち。「お風呂でも使うからだよ。プールでも使ったよね。」と咄嗟に応じたものの、資源や物を大事にするという気持ち

を、2歳児にどう伝えていけばよいのか迷うところ...という内容でした。これこそ日本中、いや世界中の親をも悩ませる「ナゼナゼ期」。確かに!水はいくらでも出ますよね。皆さんなら、どう説明しますか?

2歳児くらいまでなら、きつと言われた通りにしておしまいになるところが、3歳を迎えるこの頃になるとその理由を知りたがり、自分なりに納得を伴った行動をとろうとします。なんてすごい、感動的な成長だと思いませんか?

ちなみに、そういった子どもの疑問に対する返答に、正解はありませんので、孤軍奮闘して下さい。ただ、そうした子どもの気づきへの共感・感動を、どこか

に込めてあげて欲しい...そう思います。

知りたがる・わかりたがるのは、外界との関係に安心感を得ようとする行為...ある人の言葉を聞いてなるほどと思ひました。確かな足場が築けるから、その上にまた手を掛けようとするのですね。

行事も毎日、もっとも「深化」させていきたい...活動が充実する季節...流れるひつじ雲に思いを広げました。

園長 折井誠司

カレンダー	
10月	1 (日) 運動会
	4 (火) 発育測定 (012)
	5 (水) 発育測定 (K)
	6 (木) 健康診断
	11 (火) 防災訓練
	27 (木) 誕生会

編集 誠美保育園
編集人 折井 誠司
印刷所 誠美保育園
発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-12

電話 042-675-1551

ファックス 042-677-5643

E-mail: sebi@nokuen.jp

http://nokuen.jp/